

フーガ ト短調

作曲家

(J.S. バッハ) 1685~1750

日本は
三江戸時代



国 (ドイツ) の街 (アイゼナハ) 生まれ

独自の方法で (バロック) 音楽の総まとめを行い、古典派以降の基礎固めをした、(バロック) 時代の最後で最大の作曲家で「音楽の父」と呼ばれています。

バッハは家系に多くの音楽家があり、兄からオルガンの基礎を教わりました。

18歳頃からはドイツ各地の教会や宮廷に仕え、そこで演奏するための音楽を数多くつくりました。

- (管弦楽) 曲、(室内楽) 曲、(オルガン) 曲、
- (チェンバロ) 曲、(宗教) 音楽 など
- (1000) 曲以上にものほろる作品は、今でもなく親しまれています。

楽曲について

フーガは バッハの活躍した時代によく用いられた形式の一つです。 バッハはその形式をより充実したものとし、多くの作品を百作しました。

その中でも「フーガ ト短調」は、小規模ながら荘厳な雰囲気をもつ名曲として知られています。

同じ ト短調の「幻想曲とフーガ」と区別するために「小フーガ」の愛称でも親しまれています。

フーガ

始めに示された主題が、次々と加わる他の声部によって、繰り返されながら発展していく形式のこと。

フーガとはイタリア語で「逃げる」の意味。

この曲の中に テーマが (9) 回出てくるよ。